

事業番号	5
------	---

平成24年度事業評価シート（事前評価）

1. 事業の概要

事業名	新所原駅周辺まちづくり事業『新所原橋上駅エスカレータ』			担当課	都市計画課		
事業期間	開始年度	平成13年度	～	終了予定年度	平成30年度	担当係	新所原駅周辺整備係
総合計画	めざすまちの姿	5 調和のとれた便利なまち					
	目標	⑤利用しやすい公共交通（地域公共交通）					
	成果指標	公共交通が利用しやすくなったと感じる市民の割合	中間目標 (H27)	20%	最終目標 (H32)	30%	
予算区分	一般会計	8 款 土木費	4 項 都市計画費	1 目 都市計画総務費			
	細事業	都市計画総務関係経費					
位置づけ	関連計画						
	根拠法令	交通バリアフリー法					
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市 ・ <input type="checkbox"/> 国 ・ <input type="checkbox"/> 県 ・ <input type="checkbox"/> その他						
実施方法	<input type="checkbox"/> 市が直接実施・運営 <input checked="" type="checkbox"/> 一部又は全部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> その他（						
対象（誰のため）	<input type="checkbox"/> 全市民 <input checked="" type="checkbox"/> 特定の市民 <input type="checkbox"/> 特定の団体 <input type="checkbox"/> その他				新所原駅周辺の市民及び駅利用者		
事業の目的（何のため）	JR東海道本線により地域が分断されている新所原駅周辺の地域において、南北自由通路等の整備により、公共交通サービスの充実や交通結節点機能の向上を図る。						
内容（概要）	<p>【新所原駅周辺まちづくり事業 全体概要】</p> <p>平成14年度「新所原駅周辺まちづくり準備会」による住民活動の組織の立上げ          平成15、16年度「新所原駅周辺まちづくり研究会」によるまちづくりプランの策定に向けた調査・研究、構想策定を行い、平成17年2月「新所原駅周辺まちづくり提言書」を市に提出          平成19年度「東海道本線新所原駅自由通路等新設基本計画調査」をJR東海に依頼し実施          平成20、21年度「新所原駅周辺まちづくり研究会」による駅及び駅周辺の整備計画の検討を行い、平成22年2月「新所原駅周辺まちづくり要望書」を市に提出          平成22年度「東海道本線新所原駅自由通路等新設概略設計調査」をJR東海に依頼し実施          平成24年度 都市計画決定済（8月3日）          都市計画決定後、事業認可⇒工事協定（JRと）⇒詳細設計⇒着工の予定</p> <p>●新所原駅自由通路整備事業 『新所原橋上駅エスカレータ』</p> <p>新所原駅周辺の南北を連絡する歩行者動線を確保するために、鉄道事業者と協調し、平成28年度供用開始を目標に南北自由通路を整備し、この整備にあわせ利用者の利便性向上のため南北階段部へのエスカレーター設置を進める。          延長 約90m、 通路有効幅員 4m、 エレベーター2基、 エスカレーター2基</p> <p>高低差が7.6mあるので利便性向上のため南北階段部にそれぞれエスカレーターを併設する。</p>						
これまでの改善・見直しの状況							

2. コスト

（単位：千円）

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成23年度事業費
事業費	予算	39,784	29,924	83,079	(内訳)
	決算	35,160	27,813	→	旅費 170
財源内訳	国庫支出金			16,800	需要費 17
	県支出金				役務費 14,411
	地方債			12,400	委託料 13,214
	その他				使用料 1
	一般財源	35,160	27,813	53,879	
職員人件費	8,797	21,881	27,691	人工 2.8人	

### 3. 事業の評価

#### 事業の実施状況

活動指標	内容	単位	平成22年度	平成23年度	平成24年度	達成率
	整備事業進捗率	%	目標 実績			
※総事業に対する事業費累計の比率を事業進捗率とした。 (事業費累計/総事業費×100)		目標 実績	事業着手前なので表示しない			
		目標 実績				
実績・改善	平成23度活動内容	新所原駅周辺のまちづくりを具体化するために、南北自由通路、橋上駅舎および周辺施設計画を策定した。 (1) 新所原駅周辺まちづくり研究会 3回 (2) 新所原駅周辺整備に関する調査設計 ・新所原駅北口駅前広場測量設計業務委託 現況及び用地測量 7,000㎡ 駅前広場及び駐輪場基本設計 1式 ・新所原駅北口駅前広場物件補償調査業務委託 物件補償調査 12棟 ・新所原駅前広場デザイン検討資料作成作業 ・新所原駅北口駅前広場暫定整備検討資料作成作業				
	課題・問題点となった事項	事業開始していない為まだ実績は無い				
	どう対処したか	事業開始していない為まだ実績は無い				
	改善点	事業開始していない為まだ実績は無い				効果額 H24-H23 (千円)

自己評価	事業目的の達成状況	事業開始していない為まだ実績は無い				
	※必要性事業を廃止・休止したときの影響	平成元年ころからJRへ要望してきて、平成14年度以降の区画整理による駅南側の整備等の条件が整ったため、JRと具体的な協議を進めてきた結果、現在の整備内容で、ようやく平成23年度に自由通路新設と橋上駅舎に関する覚書を取り交わし、都市計画審議会の審議を経て都市計画決定された状況である。 既に駅の橋上化スケジュールに組み込まれた整備内容を見直すことは、JRとの再調整が必要となり、自由通路等はいづ整備可能になるのか予測できない。(少なくとも県内で橋上化計画の進んでいる4駅の後になる)				
	判定	<b>A 継続</b>	現行のとおりで実施	事業主体	市	
	判定理由	高齢者・障害者等を支える社会システムの整備が重要かつ緊急な課題となっており、公共交通機関における利用円滑化対策推進の必要性はますます高まっている。 エスカレーターの設置は、南北自由通路利用者の利便性の向上に必要であり、最近の橋上駅にはほとんど設置されている。				
今後の方向性	事業認可を受けたあとは、JRとの覚書に基づき工事協定を締結し、スケジュールに従い素々と事業を進める。					

新所原駅周辺整備事業の計画図



# 南北自由通路等の計画図

## 【施設概要】

### ◆自由通路・橋上駅舎

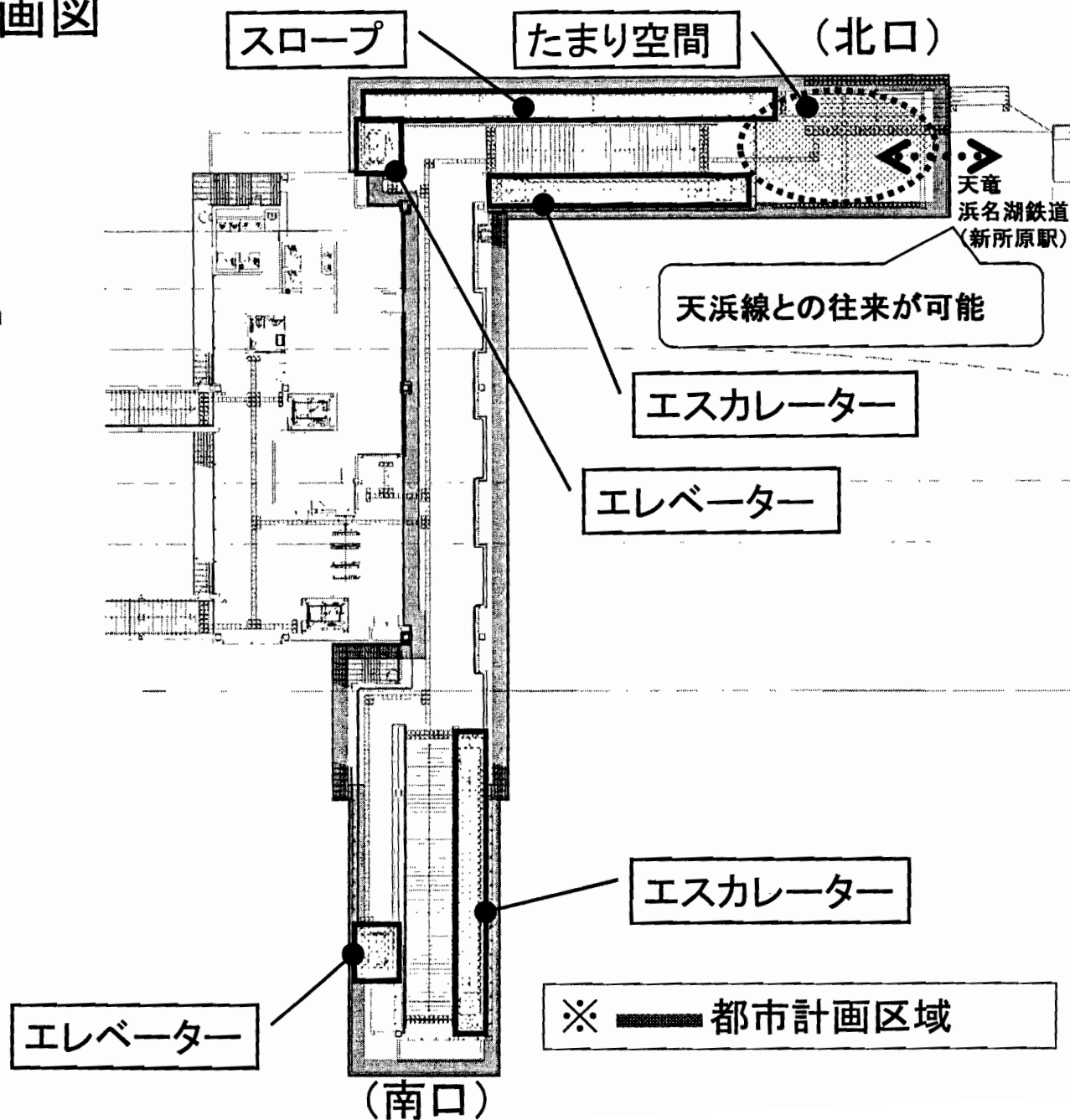
- ・構造：鉄骨造2階建て
- ・自由通路有効幅員：4m
- ・自由通路延長：約90m

### ◆エレベーター

〈自由通路〉2基（南北各1基）

### ◆エスカレーター

〈自由通路〉2基（南北各1基）



【別紙資料】

エスカレーター経費

項目	詳細	金額	備考
エスカレーター設置費	2基（上りのみ）	49,000,000円/2基	JR概略設計
保守点検業務	エスカレーター点検	4,900,000円/年	他駅の実績

新所原駅の乗降客数

	平成20年	平成42年(推計値)
JR東海	7,312人	7,832人
天竜浜名湖鉄道	1,041人	1,041人
合計	8,353人	8,873人

エスカレーター部の高低差

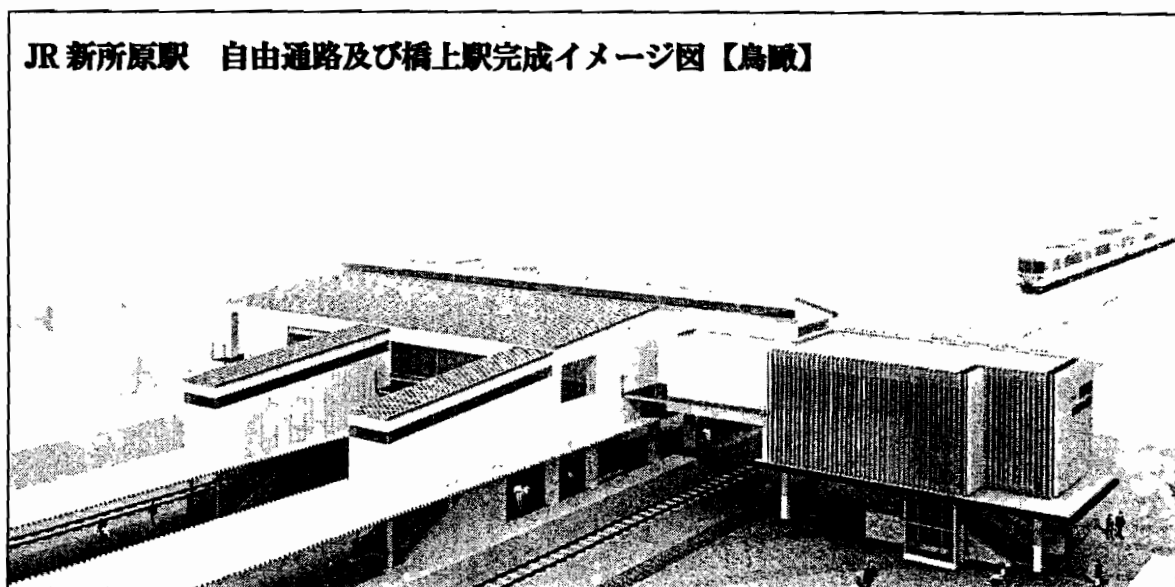
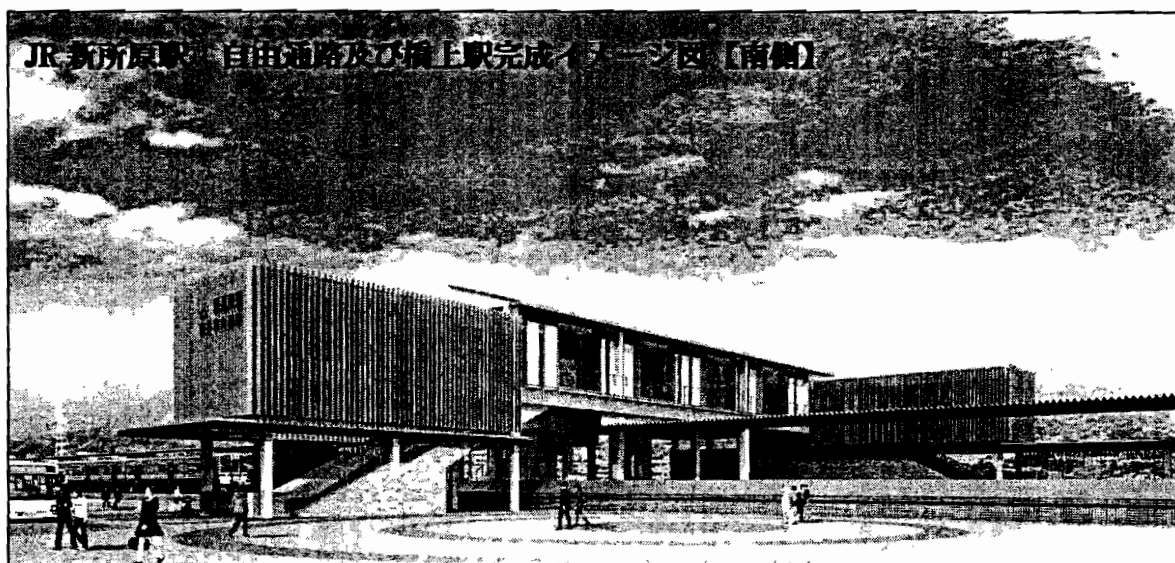
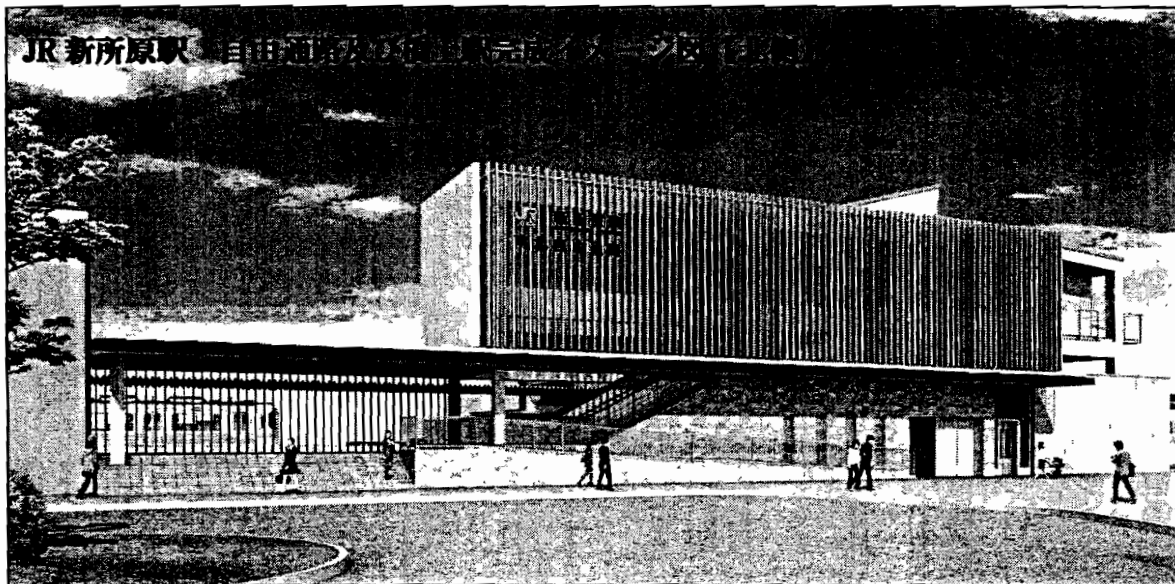
駅名	高低差(m)	階段数	種別	乗降客数(H20)	備考
新所原	7.6	51	上り	7,312人	計画中（北口5.8m）
二川	6.0	40	上り・下り	2,720人	既設
舞阪	7.2	48	上り	5,170人	既設
相見	7.5	50	上り	—	H24.3月に幸田駅と岡崎駅の中間に新設
袋井	7.5	50	上り・下り	11,392人	計画中
高塚	6.5	43	上り	4,998人	計画中
天竜川	6.9	46	上り	5,250人	計画中
草薙	7.3	49	上り	17,038人	計画中
鷲津	—	—	—	6,610人	
新居町	—	—	—	5,342人	

※1段=15cmで算定

参考（JR構内跨線橋高）

駅名	(段)	1段=15cm
新所原	32	4.8 m
鷲津	32	4.8 m
新居町	38	5.7 m

JR 新所原駅 自由通路及び橋上駅完成イメージ図



※イメージ図は、現時点での案であり、今後変更されることがあります。